

マダニ感染症 過去最多

100人超える勢い ペットにも注意

マダニが媒介する感
染症「重症熱性血小板
減少症候群（SFTS
）」の今年の患者数

フタトゲチマダニ。体長は数mm程度—国立感染症研究所提供

が、統計を取り始めた2013年以降、初めて100人を超える勢いで増えている。国立感染症研究所が19日発表した患者数は、過去最多だった17年の90人を超える96人。致死率が高く、ペットから感染する危険もあるため、注意が必要だ。

SFTSは11年、中国の研究者らが原因となるウイルスを発見した。感染すると6日、2週間の潜伏期を経て発熱、下痢、下血などの症状が表れ、致死率は30%との報告もある。治療は対症療法しかない

※感染研資料から作成。
2019年は11月19日時点

SFTS患者数の推移



く、ワクチンもない。感染研は13年から医療機関に全患者の報告を求めており、初年の40人から患者数は増加傾向にある。感染の拡大ではなく、新たな感染症として認知されるようになったのが要因とみられる。

やすく、患者の9割が60代以上だった。ウイルスはシカやイノシシなどが保有し、屋外に生息するマダニ（フタトゲチマダニなど）がその血を吸って別の動物をかむことで感染する。野山や畑に行く際は注意が必要だが、ペットが外出時にうつされ、世話をする飼い主が室内で感染する危険もある。感染研の西條政幸部長は「ペットの具合が悪い時は、厚い手袋をするなど、かまれないように注意してほしい」と話す。

【熊谷豪】

今年10月末までの累計患者数は491人で、届け出時点で70人が死亡。その後に死者は増えている可能性がある。高齢者が発症し